

教育賞
 評
 ペスタロッチー賞
 受賞者紹介
 谷恒氏

質学科を卒業。
 1922年、東京に生まれる。
 1945年、東京帝国大学理学部地質学専攻科を卒業。
 敗戦の脱力感による放浪の途上、この思いを胸にた戦災孤児から物乞いをされ、町に堀川愛生するもっと悲惨な子「がいる」と物もできぬとする。同年暮れより、福島県棚田の谷間、作られた不毛の土地を自力で切り開いた。20年の歳に板を敷いただけの小屋で、孤児転などの困難家族同然に生活する家庭舎を始め、施設の転月を愛生園に注ぎ込み、施設を軌道に乗せた。1965年、社会保障研究所の招請により、年間東京で研究生生活を送る。1969年、道家庭学校長、留岡清男氏の強い意志に至って、この遠軽町留岡北海道家庭学校は、東京巢鴨に在る。約430ヘクタールに及ぶ山野に校舎や寮が点在し、「森の学校」とも呼ばれるように、「民間男子教護きく感化する」という創設者の精き出された10づいてはいる。現在、日本で唯一の、80人、1年半施設として、学校や家庭からはじをともにし、歳から17歳の少年たちが、50人かをしながら、から2年の間、職員約30人と寝働している。不遇酪農、土木、果樹などの生産活動、子どもたちが基礎学力を身につけようと努力しな環境の中で精一杯抵抗してい

の
 よく食べ、よく眠る、「三能主義」な
 よく働き、教える者と教えられる者との真剣な
 もと、また環境に立ち向かう力を育てられたい
 対決を通し、っている。その数は1,900人を超え、
 社会へと巣立
 ている。この活動に対して、日本の児童福祉界
 1992年、氏石井十次を記念する第一回「石井
 業の先駆者」とされている。また、著書として「
 十次賞」が贈られ、『理想と現実』（東大出版会）、『ひと
 『福祉国家の理想』（評論社）、『教育の理想』（評論社）な
 むれ』（評論社）『いま教育に』（岩波ブックレ
 『いま教育に』（寺
 ト）などがあ歴史の中で、旧制高等学校理科
 氏は自らの翻訳したモルフの『ペスタロッチー
 代、長田新の読書会を行ったことにふれ、「伊
 伝』全5巻のペスタロッチーとの出会いを人生の
 見の父」ペスタロッチーの後の仕事に結びつくを
 思議な符合とする。氏の活動は「教育の原点」を
 のとされてい、ペスタロッチーの精神に通
 示すものとしらう。
 するものであ